

# 第9回 拡大内視鏡研究会

A病変



胃腸癌の発生率が増加している中、早期発見・早期治療の重要性がますます高まっています。拡大内視鏡検査は、早期発見・早期治療に大きく貢献しています。

17:17

0-1  
0-1  
0-1

0-1  
0-1  
0-1

2012 09 08



2012 09 08

# 第9回拡大内視鏡研究会

拡大内視鏡像と病理組織のさらなる対話

会期：2012年9月8日(土)

会場：全社協 灘尾ホール

代表世話人

工藤進英(昭和大学横浜市北部病院)、吉田茂昭(青森県立中央病院)

当番世話人

鶴田 修(久留米大学)

6-2 SSA/P と Inverted hyperplastic polyp が混在した 1 例

藤井隆広クリニック

藤井隆広

獨協医科大学 病理学教室

藤盛孝博

症例は 60 代、男性。他院にて逐年大腸内視鏡検診を過去 5 回行ってきたが、今回、便潜血陽性のため精査目的に当院初診。平成 24 年 3 月 10 日、大腸内視鏡検査を行い、肝彎曲近傍の横行結腸に約 20mm 大の inverted hyperplastic polyp (inverted HP) を 2 個認めた (近位側より A,B 病変とする)。A,B ともに内反する陥凹部には豊富な粘液を有し、その粘液除去は困難であったため、Non-traumatic tube による粘液吸引除去を行った。病変 A はインジゴカルミン色素散布下拡大観察により、II 型 pit を確認し inverted HP と診断した。EMR を行ったが、内反する陥凹部が残り、結果的に分割切除となった。病理結果も、inverted HP と診断された。病変 B も病変 A と同様の肉眼形態を呈し、粘液除去も同様の操作によって除去。インジゴカルミンと Crystal violet 染色下拡大観察により、IIII 型 pit を認め、SSA/P と診断し EMR による一括切除を行った。病理結果は、Inverted HP 内の一部に SSA/P の所見を伴う混在型病変であった。Inverted HP の多発に加え、SSA/P の混在を認めた一例をビデオ動画を交えて報告する。